

地域学習教材にみる土木事業の地域特性に関する考察

岐阜大学 学生員 ○山田 孝太郎
 岐阜大学 正会員 田中 尚人
 岐阜大学 正会員 秋山 孝正

1. はじめに

今日、小学校教育において児童の能動的な学習が求められており、地域学習が既に重視されている。また地域学習の題材の多くは堤防、用水、ダム等に関わる土木事業である。そこで本研究では、岐阜県下の小学校における地域学習を対象とし、土木事業について学ぶことの意義を考え、その有用性を示すことを目的とした。

2. 地域学習に用いる副読本のデータベース構築

(1) 地域学習における副読本の位置づけ

小学校学習指導要領¹⁾によると、第3、4学年の社会科で「身近な地域」についての学習を行っている。本研究ではこの自分たちの住む身近な地域の学習を「地域学習」として取り上げた。「地域学習」においては、一般的に配布されている社会科の教科書は、全国的なレベルで、編集されており、身近な地域を学習することを完全にはサポートしていない。そこで、県や市・町レベルで地域に即した「社会科副読本」が各地域の教育委員会と教員によって制作される。副読本は教科書よりも地域特性をよく表していると考えられる。

(2) 副読本資料に見る学習教育内容

学習指導要領（社会編）第2章の第2節「社会科の内容」には、第3学年及び第4学年の学習内容は、地域社会の社会的事象について取り上げることとしており、表-1の6項目から構成されると記されている。

表-1 第3学年及び第4学年の学習内容

	学習内容	略称
(ア)	自分達の生活や地域の地形、土地利用、公共施設などの様子	
(イ)	地域の生産や販売に携わっている人々の働き	
(ウ)	地域の人々の健康を守るための諸活動	生活
(エ)	地域の人々の安全を守るための諸活動	防災
(オ)	地域の古い道具、文化財や年中行事、地域の発展に尽くした先人の具体的事例	地域開発
(カ)	県（都、道、府）の地形や産業、県内の特色ある地域	特色ある地域

キーワード： 地域学習、副読本、土木事業、地域特性

連絡先： 岐阜大学大学院工学研究科土木工学専攻（〒501-1193 岐阜市柳戸1-1 TEL058-293-2447 FAX058-230-1248

この6項目は、各地域の社会科副読本の目次の構成などに反映されている。このように社会科副読本は、基本的に学習指導要領の項目に準じて制作されるが、各地域の特色を現しヴァリエーションも多い。

(3) 副読本データベースの構築

研究の基礎資料として岐阜県総合教育センター図書室²⁾にて副読本資料に関するデータ収集を行った。資料数は106冊で、(a)書名、(b)編著者名、(c)発行者 (d)出版年、(e)体裁、(f)キーワード、(g)分量、(h)内容、を調査・整理した。副読本データベース（※以下副読本DBと略す）の作成において、学習指導項目による分類を行うにあたっては、分類は各副読本の章のタイトルを判断して行い、章のタイトルで判断できない場合は節のタイトルを参照することとした。分類を行った結果、上記の6項目の中でもウ、エ、オ、カの4項目のみ「治水」について取り上げられていたので、ウ「生活」、エ「防災」、オ「地域開発」、カ「特色ある地域」と略称をつけた。

3. 副読本DBを用いた土木事業の地域特性に関する分析

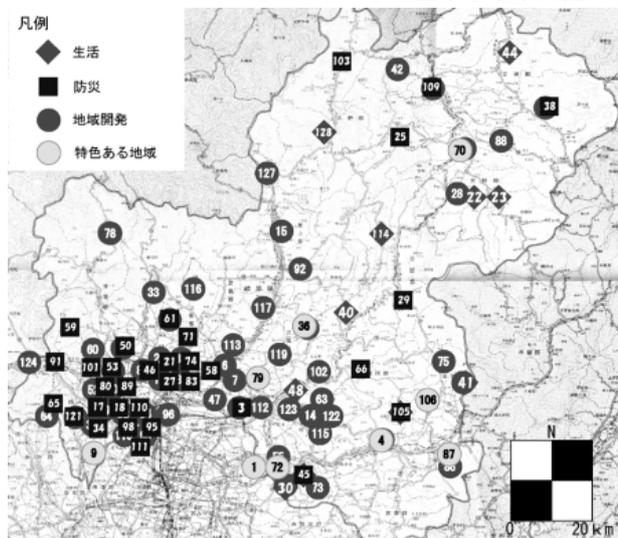
(1) 岐阜県下における分析

構築した副読本DBは、生活項目、防災35項目、地域開発57項目、特色ある地域10項目あり、全部で131項目である。これをもとに作成地より地図上に位置を記載し、分布図を作成した。この分布図を用いて、副読本資料の項目ごとの分析が可能となった。

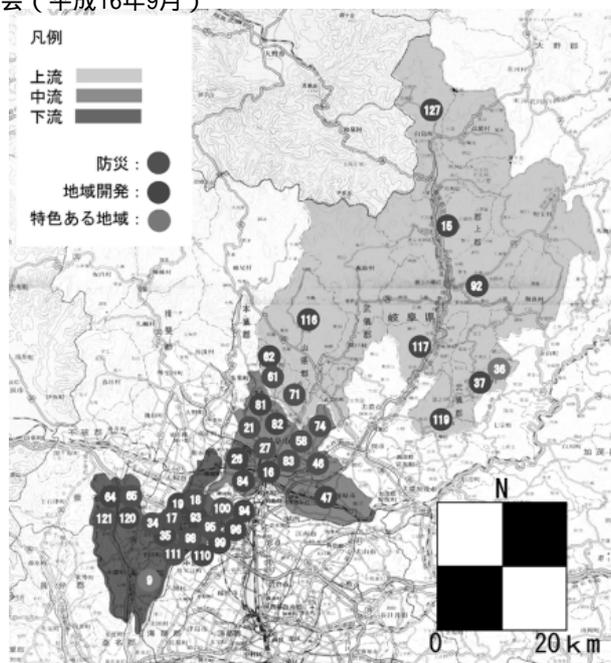
①地域間比較

学習指導項目ごと、またキーワードごとに土木事業の地域特性を、各項目別の分布図（図-1）や実際の副読本を資料とし用いて分析した。

結果としては、防災が輪中地域に集中していることや、生活が輪中地域以外に分布していることなど、同一の学習指導項目、またキーワードにおいてもそれぞれに特徴があり、本文を見ると、重点の置き方や分量等、副読本により違いがあることが明らかとなった。



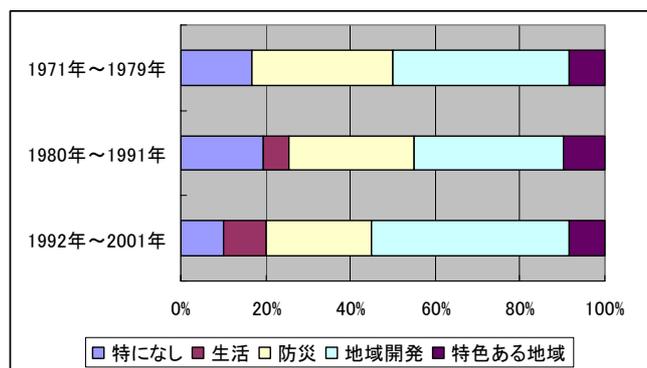
図－1 副読本資料の学習指導項目ごとの分布図



図－3 長良川流域における副読本資料の分布図

②時系列的分析

学習指導要領の改訂に伴う副読本の時系列的分析を行った。学習指導要領の改訂により年代を区切ると、1971～1979年（※以下、時代Aとする）12件、1980～1991年（時代B）51件、1992～2001年（時代C）60件の3つの時代に区分された。



図－2 年代別学習指導項目割合

それぞれの時代ごとの学習指導項目の割合（図－2）をみると、時代Aでは存在しなかった「生活」が時代Bでは6%、時代Cでは10%と増えていることがわかる。逆に「防災」は、時代Aでは33%、時代B29%、時代C25%と漸減していることが読み取れる。

（2）長良川流域における分析

岐阜県下の副読本より作成した副読本DBの資料数は131件あり、内40%程度の49件が長良川流域に分布していた。ここでは、長良川流域に着目して、上流、中流、下流の各流域（図－3）における土木事業の地域特性に関する分析を行った。結論としては、

①上流「水の便が不自由だった地域で用水や時にはため池をつくって土地を切り開いてきた」地域

②中流「河川氾濫により水害が多く堤防をつくったり河川を改修したりして生活を守ろうと努力してきた」地域
③下流「輪中を中心に河川氾濫により水害が多く堤防をつくったり河川を改修したりして生活を守ろうと努力してきた」地域

と、流域による地形や気候、水に対する考え方などの地域特性が副読本に反映されていた。

4. おわりに

副読本DBを作成し、これを用いた地域特性に関する分析を行い、以下の三つのことが明らかとなった。

- ①学習指導項目ごとに分布の特徴がある
 - ②同じ事例を取り扱っていても本文構成に地域特性に応じて違いがある
 - ③長良川流域では、各流域ごとの地域特性に基づく水に対する考え方の違いが副読本に反映されている。
- したがって岐阜県下の各小学校では、それぞれの地域特性を反映させた副読本が使用され、適切な地域学習が行われており、土木事業は風土を反映した教材であることが明らかとなった。

【参考文献】

- 1) 文部科学省：小学校学習指導要領（社会編）
- 2) 岐阜県教育委員会：HPアドレス

<http://www.pref.gifu.jp/s17765/top/>

*資料収集には、岐阜県教育委員会及び岐阜県総合教育センター図書館の皆様にお世話になった。記して感謝の意を表します。